



2016年10月発行

TEL&FAX: (0265) 39-2205 E-mail: mtl-muse@osk.janis.or.jp

## 房総半島南部に残る関東地震の痕跡

2016年9月9日(金)～14日(水)に地質学会学術大会(2016東京)に行ってきました。いつも山の写真ばかりなので、たまには海の写真も！ということで、9日に参加した房総半島南部の関東地震の痕跡を辿る巡検の様子を簡単に記します。

まずは、房総半島(写真1)内房側を南下し、<sup>たてやま</sup>館山市の<sup>けんぶつ</sup>見物海岸へ(写真2,3)。ここでは、関東地震の度に海岸が隆起しています。写真2で人が立っている平坦面は、もともと波に洗われていたところが、1923年大正関東地震のときに隆起したと考えられています。また、さらに一段高いところにある平坦面は、1703年<sup>げんろく</sup>元禄関東地震のときに隆起したと考えられています。



写真1 東京湾アクアラインで房総へ！



写真2 館山市の見物海岸

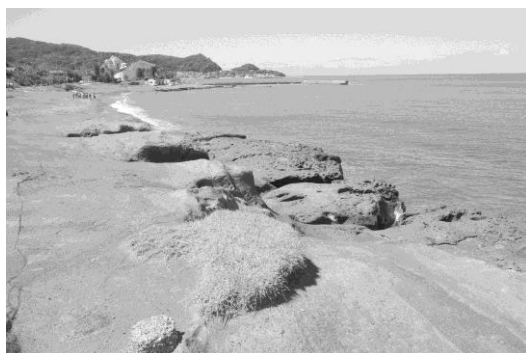


写真3 写真2を上から見る



写真4 奥の森の中に津波の残した砂礫の観察地点アリ！

次に館山市南部の<sup>ともえがわ</sup>巴川流域へ。写真4の奥の森の中、竹藪(写真5)をかき分けたところに巴川が流れています(写真6)。ここは、縄文時代には、奥行き深い湾だったところ。川岸には、海底におだやかにたまった泥の上に、津波が運んできた<sup>されき</sup>砂礫や貝殻が乱雑にたまった様子が見えていました(写真7)。さらに巴川の上流(=縄文時代は湾のより奥まったところだった場所)には、泥の層の間に、津波が海底に残していった砂の層が何枚も挟まれている露頭がありました(写真8)。

このように、房総半島南部では、縄文時代から現在に至るまで、関東地震が繰り返し起こり、その度に地殻変動や津波の影響を受けていることがわかってきました。

一方、大鹿村では、東海地震のときに、大きな揺れに襲われることが想定されています。東海地震も関東地震と同じく日本列島の下に沈みこんでいるフィリピン海プレートのプレート境界で起こる地震です。前回の1854年安政東海地震の後、150年以上経っており、そろそろ地震が起きてもおかしくないといえそうです。(宮崎)



写真5 竹藪を強行突破！



写真6 大混雑の巴川。長靴浸水被害者多数。



写真7 津波堆積物

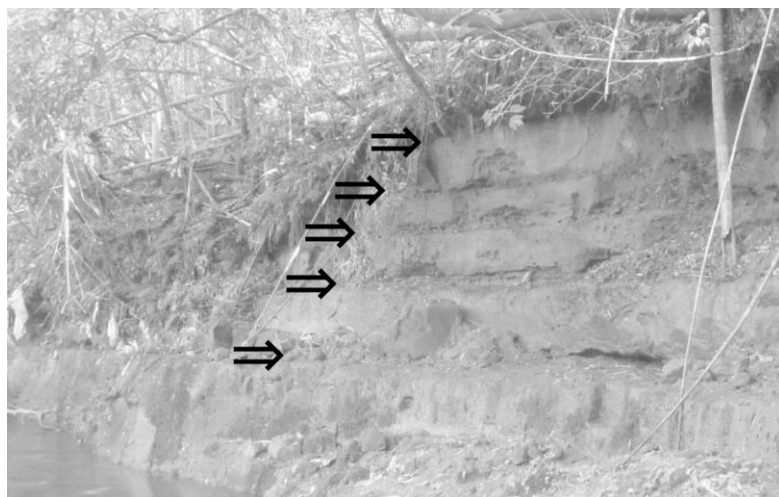


写真8 写真7より上流の露頭。矢印は津波が残していった砂の層